まいづる元気人 Vol.84

音楽のパワーでまちを元気に！

日星高等学校音楽教師

中野 紗織 さん

舞鶴で高校まで過ごし、音大を卒業。イタリアでマスタークラスを修了。現在は日星高等学校で音楽を教えながら、7つの合唱団を指導。対象は小学生から大人までと幅広く、合唱団の特性に合わせた指導を行う。また、自身も「歌恋の会」やMGNOSのメインメンバーとして演奏活動を行っている。そんな中野さんに、市内に20もの団体が活動する合唱の魅力について伺いました。

夢は音楽の先生

6歳からピアノを習い、学校の音楽の授業が大好きだった。中学校では迷わず吹奏楽部に入部。楽器はテナーサックス。当時吹奏楽を指導していた先生が吹奏楽専門だったこともあり、ますます音楽の楽しさに魅了された。「音楽の先生になりたい」という目標ができ、音大を目指す。音大に進むには専攻を決めなくてはいけないが、テナーサックスの指導者が近くにいなかったため、声楽の道を選んだ。高校3年生のときは、レッスン漬けの日々。努力が実り見事、音大に合格。しかし、大学では全国から集まる生徒のレベルの高さを知ることになる。1年の頃は「あの先輩上手いなぁ」と憧れていたが、自分が高学年になると「上手い下級生」に対し焦りとプレッシャーを感じた。卒業を控え、将来を考えていた頃、岡田中学校から音楽教師の誘いがあり地元で念願の音楽の先生になることに。

合唱部の創設

校長から「合唱ができる元気な学校にしてほしい」と依頼があった。まず学校に合唱部をつくり、5人の部員でスタート。地域のイベントに出演するうちに評判になり、周りの生徒たちも興味をもち始めて、ついには生徒の半数が合唱部に所属するほどになった。偶然にも、近くの由良川中学校に声楽専門の教師がいたこともあり、2校合同で総勢約100人の中学生がベートーヴェンの難曲「第九」に取り組んだ。見事、市文化祭典で歌い切った。ソリストは、もちろん音楽教師の2人だ。音楽の力でどんどん人を巻き込み変えてきた9年間だった。

合唱を指導するときに、大切にしていることは「雰囲気づくり」。まずは音楽の楽しさを知ってもらう。そのうち、喜び、悲しみなど感情を聞き手に伝えるには、発声、息の使い方、口の開け方などの技術がないとできないことが分かるという。

「それぞれのパートの声が絶妙に合わさることが合唱の醍醐味でもあり最も重要なこと。単に声が大きければいいというものではないんです。コンクールに出るような時は、緻密に計算して、楽譜は書き込みだらけになります」と笑う。

音楽で人と人をつなぐ

市制80周年を迎える令和5年には10年ぶりに「市民の第九」の合唱が計画されているので、何か協力したいと考えている。「歌詞はドイツ語で音程も難しい曲ですが、時間をかけて練習すれば必ず歌えます。もう孫や子どもと一緒に参加したいと言っている人もいて、夢が広がっています。声の持つエネルギーとオーケストラの音が一体になったときの感動を、参加者と観客の皆さんどちらにも味わってほしいです」と意気込みを語る。まずは田中彩子さんの文化親善大使の委嘱式に向けて、小・中・高生の合唱団を指導する。参加する子ども達が音楽を通じて、人と人とのつながりを広げ、成長し、第九を歌う姿が待ち遠しい。

舞鶴市文化親善大使に 世界で活躍するソプラノ歌手 田中彩子さん

市では「すべての市民が文化を楽しみ創造できるまち」「まちを誇りに思い、愛着が感じられる文化都市」を目指す「文化のまちづくり」を推進しています。このたび、さらなる文化の発展と創造を育み、都市としてのブランド力アップにつなげることを目的に「舞鶴市文化親善大使」を設置することになりました。そこで、本市出身(ウィーン在住)で世界的に活躍されているソプラノ歌手の田中彩子さんの就任が決定。4月18日(日)に委嘱式を執り行います。

子ども達に質の高い音楽に触れる機会を創出すると共に、夢や希望を持って生きることの素晴らしさを伝えていただくことで、ふるさと舞鶴への誇りや愛着を醸成していただきたいと思います。

▲田中彩子さん オフィシャルサイト

発行・舞鶴市（〒625-8555 京都府舞鶴市字北吸1044、☎62・2300）
※☎…舞鶴市内の電話番号では市外局番（0773）を省略しています。
編集・広報広聴課（☎66・1041、FAX 62・7951）　基本デザイン、一部編集、印刷・有限会社多田印刷所

舞鶴市公式LINEアカウント
防災情報、市政・イベント情報など
▶登録は、こちらのコードから →